23/10/31　河村たかし名古屋市長定例記者会見（２部）
名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし
https://www.youtube.com/watch?v=ofSrR1iOF8A&t=3442s

司会：　２部始めますが、ご質問ある方。

朝日新聞：　すいません朝日新聞です。ちょっとさっきの１部の質問と関連なんですけれども、東京に秘書課に言わずに行ったことについてなんですけども、これはあれですかね、保守党の百田代表にいわゆる頼まれて、行き先も言わないでくれみたいなことで市長がそうされたのか、それとも市長ご自身の判断で行き先を言うと、その共同代表就任って話が漏れるかもしれないというような考えでお話されなかったのか。

市長：　あったのは、誰がという話は言う必要ないよね、すいませんけど、外に漏れないようにお願いしますという話だったので、行き先も言うなとかそういう話じゃない、ないですよ。

朝日新聞：　じゃ行き先を言わなかったのは市長自身のご判断でっていうことで。

記者：　先ほど言ったように某マスコミの方が、なんか東京行くと、向こうの方の予定はもう明らかだったんで大丈夫、時間も、あそこへ出るんじゃないかというふうに繋がるであろうとこういうことです。

記者：　一応すいません、先ほどちょっと発言がいろいろ何かぶれてるような印象があったんですけど、東京に行ったこと自体は、秘書課に言わずに行ったこと自体は市長としては問題なかったっていう認識でいいんですよね。

市長：問題なかったというより、そういう言い方すると感じ悪いけど、言った方がよかった。どなたか知らんけどん　（市長、時間だからもう）無断状況というような言葉のものではないと少なくても、そういうことです。

記者：　市長、ごめんなさいギリギリで。あの村瀬さんが離党届け出されましたけども、私どもの取材では話し合いの場を持ちたいというふうに市長おっしゃってますけども、週明けて何か進展がありましたでしょうか。

市長：　残念なことで泣けてきますわね、こういうことやってると、本当にね。
だけど一つ言っておかなきゃなんだけど、これ記者クラブにちょっとお伺いせないかんのだけど、自民党の市議団長さんのあれはブログなのかなんか知らんけど、そこに記者クラブで受け付けた判が押してあるんですね、あれはどういうんだ、村瀬氏のコメントに記者クラブが受け付けたという判が押してある書類が、横井さんですけど。横井さんのブログか何かに出ておりますんで、それに

ついては、いろんな解釈あると思うんで、皆さんのご意見を伺いたいというのは一つは記者クラブに投げたんだから誰に言ったってそれはもうええんだとという解釈もありうると思います。
それからもう一つはやっぱり記者クラブとしての一応、管理下にというか置かれるやつですから、それが自民党の団長のブログにそのまま、判がおしてあるやつですね受付の、それが出ても、ええことなのかこれ本当にということは、ちょっと私も、横井さんもこれ返事してほしいんだ。
いやそれでええですよ別に、だから、ちょっと違和感ありますわ。

司会：　これから。各社総会で各社のご意見を聞いて

市長：　ほんならぜひ一つ、

司会：　ご指摘は分かりました。

記者：　すいません。今の離党の関連なんですけども、離党届に関しての対応を伺いたいのが一点と、離党だったり、パーティに市議の半数が欠席されたりとか反発の声も上がっている中でそのことについての受け止めを伺いたいです。

市長：　一つは彼女というか、離党届けは受け取るつもりはありません。
いろんな苦しいことがいろいろあったと思いますけど。
私が何べんも連絡したというのは、それは嘘ですよそれは。
何回かしました。どうしとるか、元気かい、何回か会ったこともありますけど。だけどまあね、ちょっとそれやっぱり、どういう表現がいいかな。まだ経験が浅いというと怒るかなぁこれ、しかし、そういう状況の中で、保守党なら保守党のこういう選択をしていくということについては、これはなかなか難しいわね実際は。特に名前ですけど、しかし減税日本は国政政党を目指して、いろんなところと連携をずっとしてきたようなことは、初めてじゃないですからねこれ。
なぜかというと、それはやっぱり減税だとか、名古屋城一つ取ったってそうですよ、やっぱ文化庁ですから、今度は国との話になってると、減税は特にそうだわね、そういうやっぱり減税日本の今までやってきたこの歴史というか、理想というか、体験、実行されたこと、延ばさないといけないがね国に。そのためには、やっぱ、百田さんや有本さんが言っとる減税もやるとこれから議員の非家業化をやっていきましょうと、子どもの事も書いとってくれとるわね、1 人の子も死なせないと。あそこまで言ってくれれば、やっぱり一緒にやっていくというのは僕は、それが使命だと思いますけど、それが減税日本を伸ばすことだと。
本当は減税日本単独でやればよかったんだけど、残念ながらでき-せんがねこれが、でしょ。
悔しいけど、

記者：　すいません。時間がないので申し訳ないんですけど、その連携をすることそれ自体というよりはそれまでの過程、何も相談がなかったことに関しておっしゃってると思うんですけれども、

それについてどう思われますかっていうのと、今後どうされますかっていうのも、合わせてお願いします。

市長：　相談がなかったというのは、今のその４時間のことに現れとるように、これはそりゃあまぁ相談しりゃ良かったんだろうと思うけど、なかなか出来ん状況だったということです、これ。
だからこういう非常に重要なテーマについては、僕は維新さんと協力するときもあんまりそんなことを相談した記憶はないですけどねこれ、ということもあってそれは話がもっとできればよかったと思うけど、皆さんと。
しょうがなかったし、それだけのやっぱり大きな今回は動きだったと思いますよ私は。必ずそうせないかん。減税日本の理想がこの保守党の中で生きていくようにですねこれ。

記者：　今後の対応の内容とその党内の反発にたいして。

市長：　今後の対応と誰なの

記者：　受け付けない。じゃぁその後どうするのか、さらに話し合いを求めていくのか、

市長：　そりゃよう話しせないかんわね。なんでこうなったのかなとということは、（時間ですので）それから欠席された方もありますけど、いろんなご意見ありますけど、今、ずっと逐次お話を伺っております。
お話を聞き取って、なるべく大きい勢力で、減税日本やってきたことを伸ばしていくためにどういう手段があるのかと言いたいのはね。ここが言いたいところです。
このままじっとしとった場合、どうなるのかと、なかなか厳しいですよそれは。

司会：　市長ありがとうございました。これで終わります。

市長：　はい、ええですか。